

国際関係学部国際関係学科（現国際学科）卒業の中島弘象氏の話題作『フィリピンパブ嬢の社会学』に続く、抱腹絶倒のドキュメント第二弾!!



『フィリピンパブ嬢の経済学』

フィリピンパブ嬢との出会いと交際は、すったもんだの末に見事ゴールイン。これで平穏な日々が訪れるかと思いきや、妻が妊娠。新たな生命の誕生とともに二人の人生は新たな局面に突入する。初めての育児、言葉の壁、親族縁者の無心と綱渡りの家計……それでも「大丈夫、何とかなるよ」。異文化の中で奮闘する妻と支える夫の運命は？

著者：中島弘象
発売日：2023年6月19日
定価：902円（税込）
発行所：新潮社

目次

- はじめに
- 第一章 子ども、生まれる
- 第二章 日本で子どもを、育てる
- 第三章 フィリピンの家族——終わらない送金
- 第四章 フィリピンハーフに生まれて
- 第五章 在留資格という関門
- おわりに

書籍紹介

大人になった「フィリピンハーフ」様々なパターン

この本の主人公である中島さんとフィリピン人妻のミカさんの子供は日本人とフィリピン人のハーフになるわけですが、本の中では何人かの20代、30代の「フィリピンハーフ」にインタビューしています。ただ、「フィリピンハーフ」とはいえ、そのパターンは様々。日本人父とフィリピン人母を親に持つパターンは多いですが、両親の離婚で生活が不安定になったり、フィリピンで育った後に日本行きを思い立ち、日本語がわからず苦労するケース。実の両親ともにフィリピン人だが、日本に滞在するために母親が日本人男性と結婚し、その後も子供が親の偽装結婚に関する不安を抱え続けるケース。それぞれ、様々な困難があるようです。

担当編集者のひとこと

妻のミカさんは出産、子育てで奮闘します。日本人だって簡単にはいかないのに、何しろ関係書類の中でタガログ語で書いてあるのは母子手帳だけなので、夫や義母の手助けがなければ最初は何もわかりません。行政はいろいろな情報を出していても、それが外国人に届いているのかどうかは相当怪しいわけです。その上、幼稚園に入ると手提げ袋、靴入れ、給食袋などは全部手作り、持ち物すべてに名前を入れなければなりません。大変です。ただミカさんは最初は戸惑うものの「慣れてきたら楽しかったよ」と順応していきます。本のオビにあるように、何とかなるものなんですねえ。

著者プロフィール

中島弘象（ナカシマ・コウショウ）

1989（平成元）年、愛知県春日井市生まれ。中部大学大学院修了（国際関係学専攻）。会社員として勤務するかたわら、名古屋市のフィリピンパブを中心に取材・執筆等を行う。『フィリピンパブ嬢の社会学』は映画化が決定された。

関連書籍【映画化決定：2023年秋公開予定】

『フィリピンパブ嬢の社会学』



著者：中島弘象
発売日：2017年2月17日
定価：902円（税込）
発行所：新潮社

関連リンク

中部大学国際関係学部・国際学科（お知らせ）2022年9月3日

国際関係学部国際関係学科（現・国際学科）卒業生の中島弘象さん原作の映画「フィリピンパブ嬢の社会学」の撮影について中日新聞に掲載されました
<https://www.chubu.ac.jp/news/7695/>

Share: [f](#) [X](#) [v](#)

